

令和6年度

(宮城県立利府支援学校) 学校の研究概要 ～令和7年1月末現在～

運営委員氏名 (教諭 攝待 紗和子)

研究テーマ	「児童生徒の実態に応じた資質・能力の育成を目指した指導の在り方を探る」 ～主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業改善を通して～
研究目標	学習指導要領の理念、内容について共通理解を図るとともに、児童生徒に身に付けさせたい資質、能力を共有しながら授業改善に取り組み、児童生徒の実態に応じた資質、能力の育成を目指した指導の在り方を探る。
研究内容・方法 研究計画等	<p>○研究の内容</p> <p>(1) 学習指導要領についての研修を通して教員一人一人の理解を深め、また研修の内容に基づき授業改善、授業づくりの方法を確認する。</p> <p>(2) 「主体的・対話的で深い学び」において、それぞれの学びの姿を具体化し、授業づくりに生かす。</p> <p>(3) 研修会の内容を基に授業づくりを行い、学部ごとに研究授業(1授業)を行い、事後検討会では全校(小中高縦割りグループ10組による話し合い)で行う。</p> <p>○研究の方法</p> <p>(1) 「主体的・対話的で深い学び」についての研修会(7月19日)</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」に視点にあてた授業作りを行う上で、児童生徒の実態把握が重要な要素となることから、教員としての視野を広げるために本校のスクールカウンセラーによる講話を研修会として実施した。心理学の視点から児童生徒への指導のアプローチについて、実際の事例を通して講話を聞くことができた。講話の内容を基に教員ができることについて考え、教員一人一人が児童生徒理解について視野を広げることができた。</p> <p>(2) 研究授業(指導案検討会、事後検討会含む)(6月～12月)</p> <p>研修会の内容を基に授業づくりを行い、学部ごとに指導案検討会、研究授業を行った。実施した授業は映像資料として録画し、学部関係なく全教員が視聴した後、小学部、中学部、高等部の教員を縦割りグループで10グループほどに分け「主体的・対話的で深い学び」に視点をあてて授業を振り返りながら話し合いを行った。(全校による事後検討会は、全3回行った。)</p> <p>(3) 研究紀要の作成(1月～3月)</p> <p>研究授業、事後検討会等、今年度の取り組みを授業ごとに全校研での話し合いの結果を含めて学部ごとにまとめ、成果、課題を来年度につなげられるよう実施報告としまとめる。</p>
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	<p>今年度は、本研究3年目であり、まとめの年となる。1、2年目の成果をもとに「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を目指した各学部の研究授業を行いながら、事後検討会では学部の垣根を越えて縦割りグループでの話し合いを実施した。また、まとめに向けて研究を充実させる年でもある3年目は、教員間で「学習指導要領」や「児童生徒に身に付けさせたい資質・能力」、「主体的・対話的で深い学び」等に対する理解を深めるための研修や全校研の話し合いを通して、小学部、中学部、高等部が協働研究を進めていった。発達段階の違う児童生徒を受け持つ教員で話し合いを深めることができ、大きな成果を得られたと考える。</p> <p>研究成果として、これまで学部内で行ってきた事後検討会を全学部の教員が集まって縦割りグループを作り、話し合いを行ったことで、様々なアイデアや工夫、意見等が出され、有意義な話し合いになった。さらに、小学部の授業を中学部、高等部の教員が見るなど互いの学部の授業を視聴したことで、系統性のある指導も意識することができ、よりよい授業づくり、児童生徒の実態に応じた資質・能力の育成への日々の指導につながったのではないかと考える。</p>